

## 今月の環境サロン

身近な環境問題などをテーマに、みんなで気軽に学びあえる場、語りあえる場が環境サロンです。一度だけのご参加も歓迎です。  
問合せ…0836-39-8110  
(銀天エコプラザ)

### 里山の保全と再生シリーズ 第5回

9/11(木) 15:00~17:00  
「野菜づくりから学ぶ」

お話: 津島 榮さん (うべ環境コミュニティー)  
ところ: 恩田ふれあいセンター  
参加費: 無料

恩田校区 CS 出張サロンとして、学童保育のこども達を対象に、近在の菜園で各自自分の白菜の苗を植える作業をします。そのあと継続的に世話をして収穫して食べることで、食べ物や農業の大切さについて考える試みです。

### 低炭素のまちづくりシリーズ 第3回

9/17(水) 18:30~20:30

## 「ペレットストーブの利用から低炭素循環型社会について考える」

お話: 東田浩一さん (スタジオセンス)  
ところ: まちなか環境学習館  
参加費: 資料代として200円 (ただし100エコハ進呈)

我が国のエネルギー自給率は食料自給率より低く、木質ペレットの形で森林資源を活用することで、どの程度、エネルギーの地産地消に貢献できるのかについて考えます。東田さんは県教育庁職員、農業高校の校長も経験されていて、色々なお話が伺えると思います。

### 世代間地域対話シリーズ 第4回

9/25(木) 18:30~20:30

## 「画家の目から見た現在の環境問題」

お話: 尾崎真吾さん (画家・イラストレーター)  
ところ: まちなか環境学習館  
参加費: 資料代として200円 (ただし100エコハ進呈)

尾崎真吾さんは、画家・イラストレーターとして著名な方です。アメリカのカンザスの州立大学美術学修士、ピースボートで3回世界一周をされるなど、国際経験の豊かなアーティストです。現在は長門市在住で、金子みすずや宮沢賢治の挿絵も描いておられるので、幼少期の思い出も含めて、どんなお話になるか楽しみです。

## 第13回 まちなかエコ市場

9月13日(土) 10:00~15:00

第13回目の「まちなかエコ市場」を開催いたします。今回は、宇部市の自転車商協同組合からの出展があり、イベント会場で電動自転車の試乗などを楽しんでいただけます。また、「うべ・くすのき合併10周年」を記念した関連のブースや出店などもあります。もちろん、恒例となった「里山軽トラ市」や飲食ブース、各種ステージなどもおこないます。皆様お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

問合せ…0836-39-8110 (銀天エコプラザ)



## まちなか銀天おそうじ隊募集!

「まちなか銀天おそうじ隊」は、月に一度、まちなか環境学習館周辺や銀天街アーケードなどを掃除しています。メンバーはその日集まってくださった方。楽しくおしゃべりしながら、「まち」をちょっときれいにしませんか?

今回は 9月28日(日) 15:00 から。まちなか環境学習館前に集合です。

おそうじ隊参加者には、環境地域通貨「エコハ券」2枚進呈!



この夏、「おそうじ隊」は出張しました。参加されたみなさま、暑い中お疲れさまでした。

宇部市まちなか環境学習館「銀天エコプラザ」には環境関連図書もある学習室(無料)、使いやすい料金のミーティングルーム(大・小)があります。ご利用、ご見学をお待ちしております。

## 宇部市環境学習ポータルサイト「うべっくる」



うべっくる  検索  
<http://www.ubekuru.com>

宇部市のいろいろな環境学習拠点の紹介、環境関連のイベントのお知らせなど、随時更新しています。

「銀天エコプラザ」の詳しい紹介もあります。

facebook や Twitter へもこちらからアクセスできます。

まちなか環境学習館や環境に関することについて、ご意見・ご質問等、お気軽にお寄せください。ポータルサイト内の問い合わせ欄やブログ、フェイスブックのコメント欄もご利用ください。

## 宇部フリーマーケット事務局

私たち宇部フリーマーケット事務局は、

①宇部のシンボルである常盤公園をもっと多くの人に知ってもらいたい。

②モノの価値を見直し、モノの命を大切にする。

③活気ある街づくりと国際交流の場に広げたい。

この3つの趣旨を掲げて年4回（3月・5月・9月・11月）常盤公園東駐車場でフリーマーケットを午前7時から午後2時まで開催しています。平成8年より始めて早19年が経ちました。スタッフは主婦ばかりの12名だけです。

物々交換から始まった人間の生活環境は、形こそ変わりましたが、原型は同じです。「捨てられるモノが生かされる」「要らない人から要る人へ」「モノの命が終わらない」なんて素晴らしいことだと思いませんか！ 私たち大人も、未来を担う子供たちにも、モノを大切にする心を培いリサイクルの楽しさを学んでもらいたいと願っています。

県下一の出店数（300店舗）に多くの方々ที่มา場され、家族連れで一日中仲良く過ごされる姿を眺めるのが、スタッフが一番癒されるひとときです！

9月14日（日）常盤公園東駐車場でフリーマーケットを開催いたします。皆さまのお越しをスタッフ一同お待ちしております。

連絡先 090-7135-3729(蔵澄)



〈環境歳時記〉

9月26日

### 水俣病に関し、 政府正式見解発表 (1968年)



昨年5月度のエコ通信に記載した1956年5月1日の水俣病の公式確認以後、その原因について熊本大学を中心に原因究明が精力的に行われてきた。しかし、原因会社であるチッソの非協力的な態度はもちろん、水俣市、熊本県、そして国の消極的な対応などによってその究明努力は困難を極めた。しかし、懸命な原因物質の探求は次第にその幅を狭めてきた。

1958年9月には熊本大学竹内教授が、水俣病の病理所見はハンター&ラッセルにより報告された有機水銀中毒例とのみ完全に一致すると研究班報告会で報告した。また1962年8月には入鹿山教授がチッソ水俣工場のアセトアルデヒド生産設備から採取した触媒滓から、メチル水銀化合物（有機水銀の一種）を取り出すことに成功したと発表した。

その間、チッソ社内でも1959年付属病院細川院長の猫への工場廃液の直接投与で水俣病特有の症状を示すことを確認した（猫400号試験）。これは会社上層部から公表を差し止め

られ、また院長の引き続きの実験をも禁止してしまった。

またチッソ社内の技術部でも水俣病公式確認の1956年からさかのぼること5年、技術員の塩出忠次氏はアセトアルデヒドの製造工程で無機水銀がアセチレンを加えると有機化することを確認し報告書を会社に提出したがそれは葬り去られていた。

おりしも世間は1960年代初頭にはじまった高度成長期にあたり、企業は国の指導もあり石油化学へスクラップアンドビルドを盛んに繰り返し、新規設備で増産を図っていた。

しかしチッソは水俣工場に固執し、この新しい波に乗り遅れ、新しい工場である千葉県の五井工場でアセトアルデヒドの生産開始は1964年となった。しかし生産が軌道に乗るまでは水俣工場での生産を止めることができず水俣工場でのアセトアルデヒドの増産を繰り返していた。

そして五井工場の生産が軌道に乗るのを見届けて、水俣工場での生産中止は1968年5月となった。そこにはアセトアルデヒドの国内生産を維持しようとする通産省の色濃い指導の姿があった。

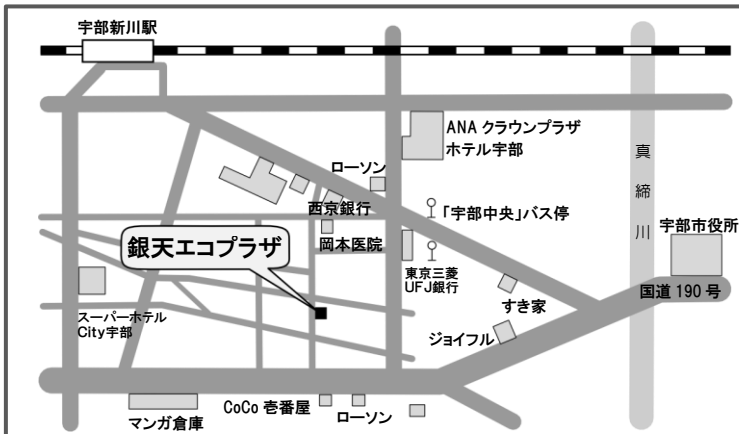
水俣病裁判の中で当時の通産省軽工業局の秋山局長はアセトアルデヒドの需要は逼迫しており生産を止めることはできない

といった主旨の証言をしており、まさに国指導により人命より生産を優先してきたと言っても過言ではない状況であった。

このような国の指導による周到な段取りを済ませたのちに、ようやく政府は公式確認の12年後、1968年9月26日、水俣病に関し「熊本水俣病は新日本窒素・水俣工場のアセトアルデヒド酢酸設備内で生成されたメチル水銀化合物が原因であると断定し、新潟水俣病は昭電鹿瀬工場のアセトアルデヒド製造工程中に副生されたメチル水銀化合物を含む排水が中毒発生の基盤をなしたと判断する」という内容の見解を出し、厚生省は水俣病を公害病と認定した。

水俣病の原因が熊本大学や細川院長の努力によりほぼ判明した以後も水俣工場でのアセトアルデヒド生産は続けられ、生産が止まるまでの10年近く、有機水銀の汚染水は生産の増大とともに水俣湾はもとより有明海一帯に広がり、発生を防止し得たかもしれない多くの患者をもたらし、患者の総数は潜在患者を含めると20万人とも言われる世界最大の有機水銀中毒事件となった。

また、この国の恣意的な原因公表の遅れは1965年の新潟での第二水俣病の発見という、水俣の事件が早期に公表し、対応がなされていれば避けられたかもしれない事態を起こした。（館長 西村誠）



### 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail info@ubekuru.com

開館時間 9時～21時

休館日 毎週火曜日、年末年始（12月29日～1月3日）